

アンケート結果から見たこと

丹波篠山の子ども食と健康を考える会

目指す姿

- SDGs目標1「貧困をなくそう」・・・全世帯の子どもたちがおなかいっぱい食べ、健やかな成長につなげる
- SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」・・・世帯構成や困窮状況に関わらず、すべての子どもたちが学ぶことができる
- SDGs目標8「働きがいも経済成長も」・・・弱い立場の人が不利にならず、暮らしと両立しながら働きがいのある仕事に就ける

子育て世帯の状況

- ・コロナの影響を受け、36%の世帯で収入減、50%の世帯で支出増。
- ・ひとり親世帯・多子世帯・収入の低い世帯など、コロナ前から厳しい状況の世帯が、生活面も金銭面もコロナでより厳しい状況に。
- ・ネットを使い、他自治体の子育て環境や支援策をよく知っている。
- ・市や社協に相談できることを50%が知らない。

困窮していることをまわりに知られたくない。

→自治会レベルでは把握できていない！

「困窮している世帯は必ずいる」という前提に立つ。

市・教育委員会・社協に取り組んでほしいこと

- ・子育て世代にマッチしたSNSを使った情報発信を！
届かない＝発信していないのと同じ！→他自治体から取り残される。
- ・誰にでもチャンスのある世の中の実現に向けて
児童手当・児童扶養手当など、現金給付の増額。
奨学金制度や教育費用の助成・免除の拡充。
市民団体を支援する仕組みや制度の拡充。
- ・虐待防止ではなく、『子どもを愛して大切に育てる』の取り組み。
- ・ひとり親世帯の養育費立替制度の導入。
養育費不払い解消に向け、法務省が動いているが、先行自治体と同じように、信用会社と連携して肩代わりする仕組みを導入。
- ・ひとり親が働きやすい職場づくりを事業者に指導。
- ・発達障害児と保護者への合理的配慮、インクルーシブ教育を実現するための調査。児童の教育の場、保護者が気軽に相談できる場の提供。
- ・公園と遊具の充実→『おいでよささこ遊具設置事業』
- ・3才児への対応→『もりのようちえん事業』

具体的な困りごと

- ・全体の11%の世帯がコロナ前から食費を削り、他の生活費を優先。コロナにより21%に増えている。
 - ・貯金できない。教育資金への不安。→子ども・家族の将来への不安。
 - ・子どもに手をあげてしまう世帯が少なからずある。
 - ・3才児が幼稚園に入れない。
 - ・公園が少ない、遊具がない。
 - ・就学後の発達障害児の療育機会が少なすぎる。相談できる場もない。
- 【ひとり親世帯特有】
- ・養育費がキチンと受け取れない。・働きやすい職場にしてほしい。

当団体や市民活動に期待すること

- ・ささっこ青空ひろばの継続。
居場所（遊び場）と食支援がセットだからこそ、保護者も楽しめる。
- ・ひとり親世帯、困窮世帯へのお弁当や食材の提供。
食支援に加え、子どもと過ごす時間を増やすことにつながる。
- ・家庭ではできない学びの場。「命の大切さ」「性教育」
- ・イベントに参加できない世帯の方が支援が必要な可能性が高い。
→子ども宅食など、見守り支援強化事業

「続けてほしい、でも継続できるの？」と心配する声

仕事のオンライン化が進み、地方への移住者が増えている。

これはチャンス！だが、他の地方自治体と比較されるピンチ！でもある！
「利用者が少ない」「対象者が少ない」今だからこそ、子育て環境や施策、市民活動を充実し、移住希望者に選ばれる街に！

子育ていちばんの街に！